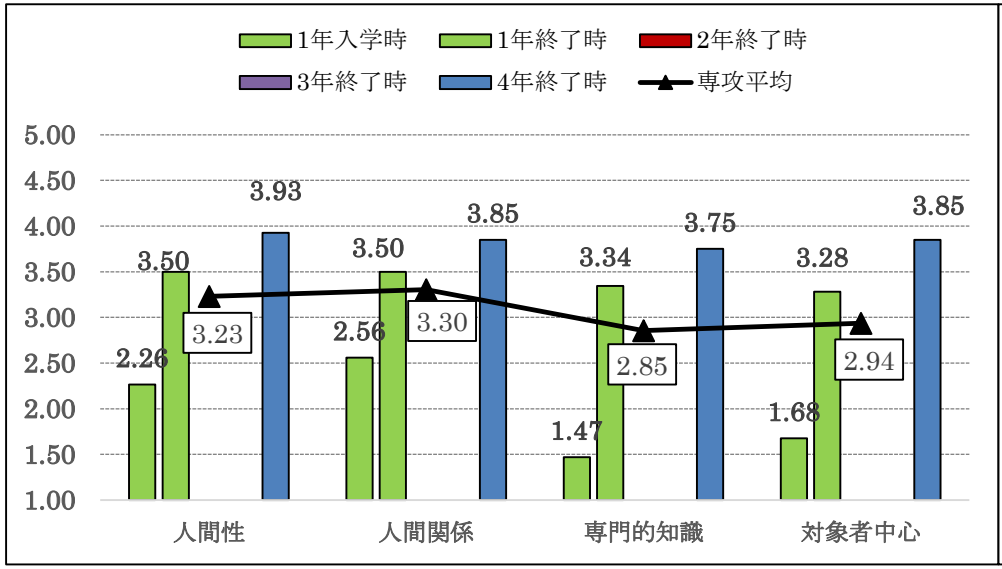
2019 年度　学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

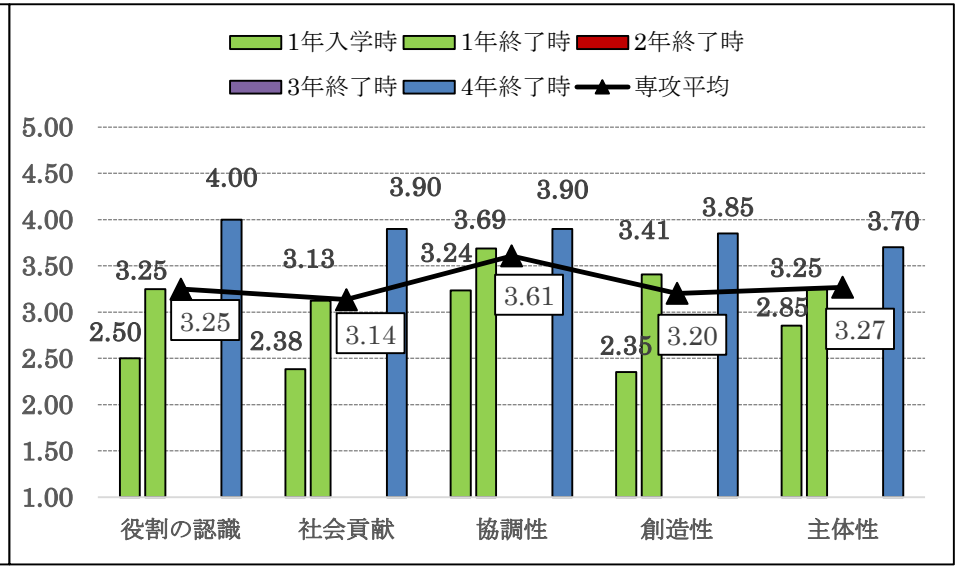
マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。

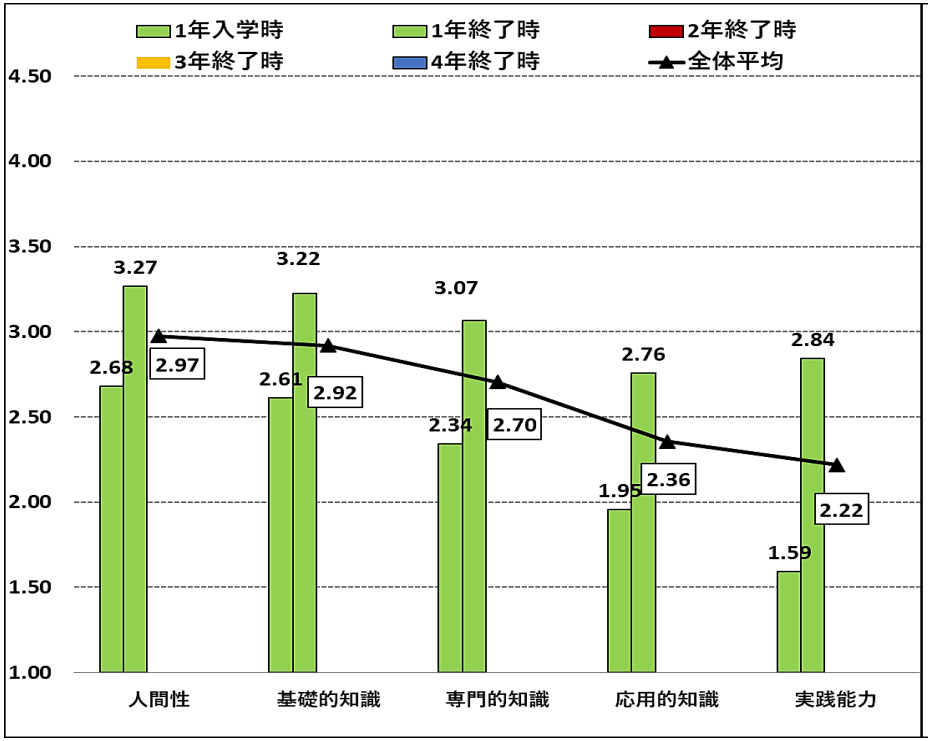
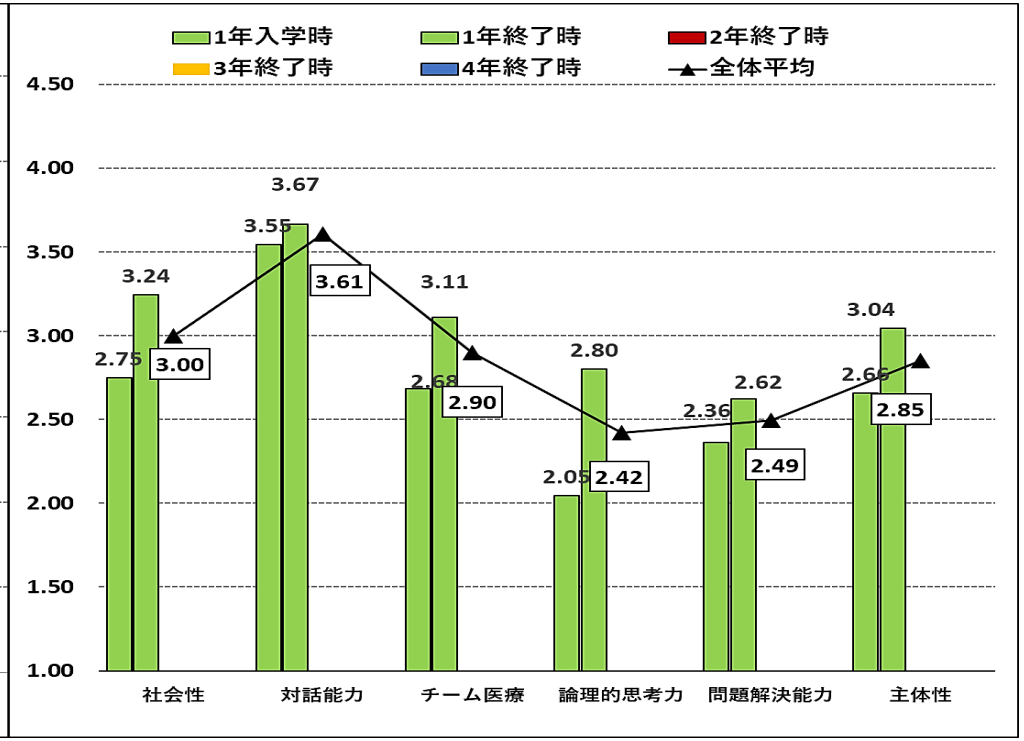
学科・研究科専攻名　リハビリテーション学科

作業療法学専攻

・**分析対象の内訳：**1 年入学時 34 名（94.4%）、1 年終了時 32 名（88.8%）、2 年終了時 1 名、3 年終了時回答なし、4 年終了時 40 名（100%）。
・**学年推移による比較の概要および前年度との比較：**今年度は、2 年生と 3 年生のデータが得られなかったため、詳細な分析は困難。1 年入学時と終了時の比較では、主体性（+0.40）と協調性（+0.45）はわずかに上昇したが、専門的知識（+1.87）、対象者中心（＋1.60）、人間性（+1.24）の 3 項目に関しては大きく上昇した。前年度の 1 年生との比較では、今年度の方が専門的知識、対象者中心、役割の認識の上昇が大きかったが、主体性の項目は昨年度と同等で、変化としても小さい傾向が示された。
・**入学時と卒業時の比較：**入学時と 4 年終了時の平均値の比較でみると、協調性（+0.66）、主体性（0.85）を除くその他の項目では 1.29-2.28 の上昇がみられた。





理学療法学専攻

・**分析対象の内訳：**1 年入学時　44 名（95.7%）、1 年終了時 44 名（95.7%）、2 年終了時回答なし、3 年終了時回答なし、4 年終了時 1 名。
・**学年推移による比較の概要および前年度との比較：**1 年生の回答しか得られなかったため、学年の推移を含め詳細な分析は困難。1 年入学時と終了時での変化で最も大きい項目は実践能力（+1.25）であり、応用的知識（+0.80）、論理的思考（+0.75）、専門的知識（+0.73）となっていた。一方、変化の少なかった項目は、対話能力（+0.12）、問題解決能力（+0.26）であった。1 年間の大学生活の過程において、基礎知識と実践力の獲得を実感しながら少しずつ専門職に必須の論理的思考を身につけている様子がうかがわれた。今後の課題としては、学内授業の中で対話能力や問題解決能力向上の機会や工夫をでさらに取り入れていく必要がある。
・**入学時と卒業時の比較：**今年度はデータ不足により分析を実施せず。次年度以降は、アンケート実施に関する学生周知を確実に行い、回答率を上げるよう取り組んでいきたい。